

I . あきる野市の現況と課題

1. 現況と地域課題の把握

1-1 地勢

本市は、都心から約40～50kmの西部に位置し、東西に18.0km、南北に12.7km、面積は73.47km²の広さで、都内26市の中で3番目の広さを有しています。

市域は山地、丘陵地、台地、低地によって構成されており、西から東に向かって標高が低くなっています。

山地は、市域の西部に大きく広がっており、秋川、養沢川、盆堀川などが流れ、渓谷を形成しています。

丘陵地は、市域の南に秋川丘陵、北に草花丘陵が広がっています。

台地は、古くから秋留台地と呼ばれ、市街地は主にこの地域に形成されています。

低地は、秋川、平井川沿いに広がっており、畑や水田などの農地として利用されています。

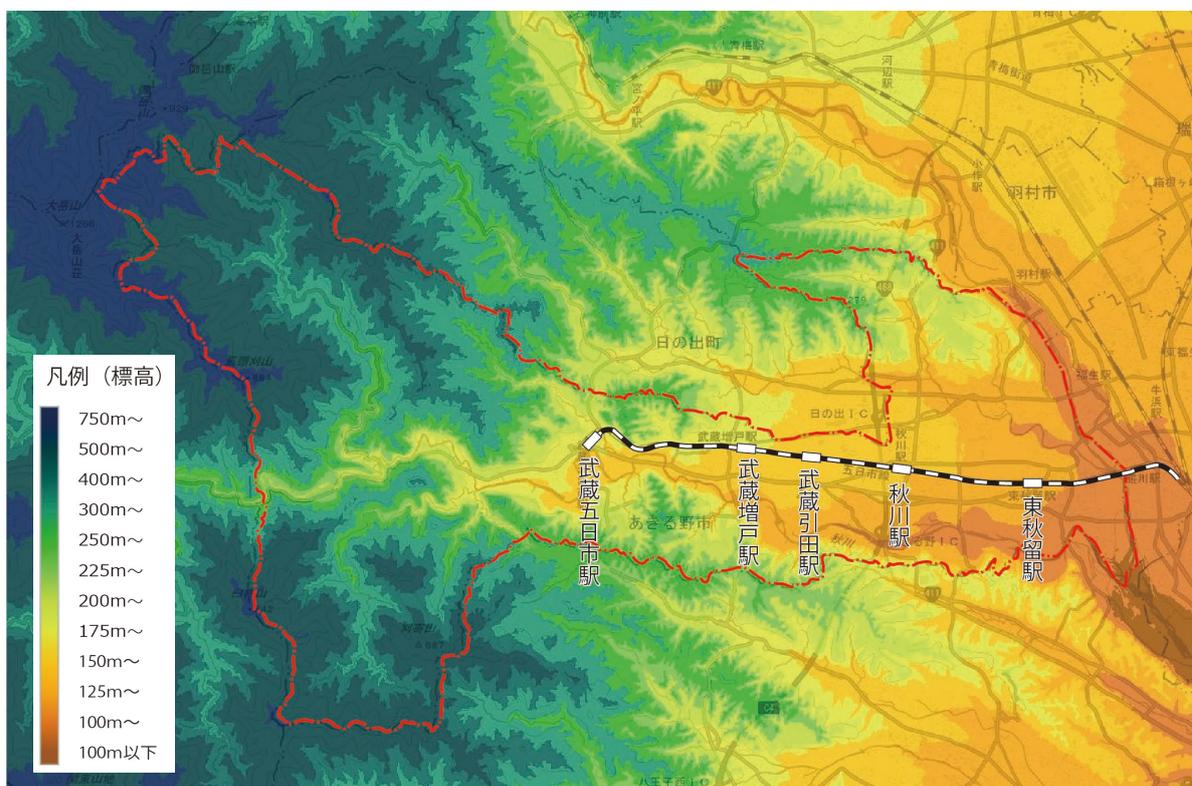


図1 本市の地形

出典：国土地理院 地理院地図より作成

1-2 都市の「活力」に関する現況・課題

(1) 少子高齢化に対応した住み続けられるまち

■ 現況と課題

人口減少・少子高齢化の進行により、人口の構造等の変化や高齢化に対応した、良好で魅力ある住宅地への誘導が必要となってきます(図2)。

2020年：高齢化率(65歳以上人口が占める割合)が30%を超える。

2040年：老年(65歳以上)人口1人に対する生産年齢(15~64歳)人口が1.5人を下回る。

2040年：総人口が2020年から約9,500人減少する。

東秋留地域、秋川地域、増戸・引田地域の市街化区域内に空き家が多く、小宮・戸倉地域では人口当たりの空き家数が多い状況です(図4)。また、五日市地域、小宮・戸倉地域で高齢化が更に進むと予測されます(図5)。

今後の人口減少・少子高齢化を踏まえると、さらに空き家が増加する恐れがあり、空き家の利活用等の対応が必要となってきます。

昼夜人口は、通勤・通学による市外流出超過が続いており、市内での通勤・通学先の確保などによる活力維持が必要です(図3)。



図2 人口、年少人口・生産年齢人口・老年人口の推移と予測

出典：国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口(平成30年推計)」、国勢調査

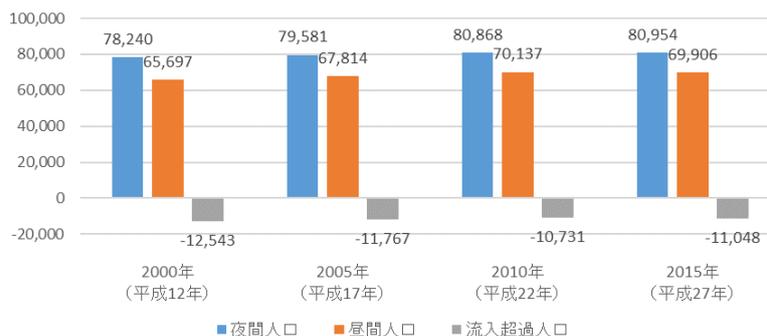


図3 昼夜間人口の推移

出典：国勢調査

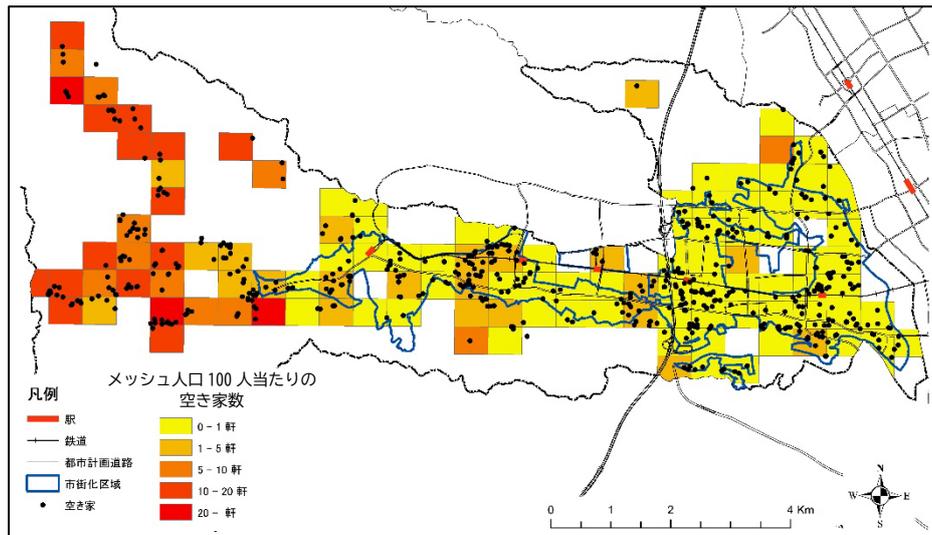


図4 空き家の立地状況及び各メッシュ人口100人当たりの空き家数※

(※色のついていないメッシュは空き家もしくは人口のデータが無いもの)

出典：土地建物統計調査、国土数値情報より作成

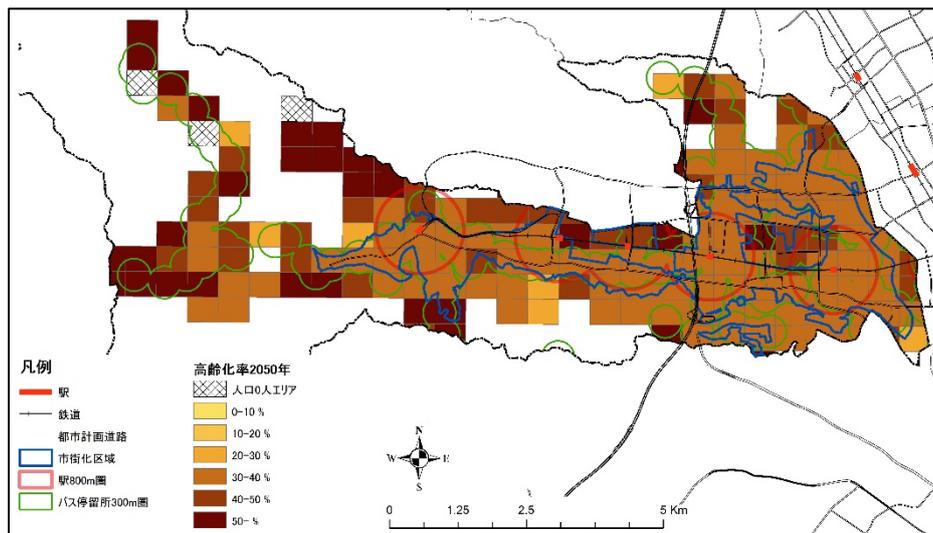


図5 高齡化率[2050年]

出典：国土数値情報より作成

■ まちづくりの方向性

少子高齢化等の社会・経済情勢、空き家の増加等の市の現況・課題を踏まえ、都市計画マスタープランのまちづくりの方向性は次のとおりとします。

- 本格的に進む人口減少・少子高齢化に対応し、いつまでも住み続けられるための土地利用の誘導や公共交通と連携した都市構造、土地利用への反映【土地利用】【交通】
- 人口減少・少子高齢化により生じる市街地の空洞化を防止し、空き家等の有効活用を促進【土地利用】
- 居住継続と活力維持のための職住近接のまちづくり【土地利用】【産業】

(【 】内は該当する全体まちづくり方針の分野)

(2) 交通基盤や未利用地等を生かした活力のあるまち

■ 現況と課題

市内の主な道路の交通量は多くの路線で増加しています。特に圏央道周辺における交通量の増加率が高く、交通需要に対応した道路整備とともに圏央道を活用したまちづくりが必要です(図6)。

菅生・草花地域、増戸・引田地域、五日市地域の3地域周辺の市街化区域内には、農用地や未利用地が多く、農業等との調和を図りながら活気があるまちづくりへの活用が求められます(図7、図8)。

日帰り観光客や宿泊客は増加傾向にあり、観光のまちづくりが必要です(図9)。

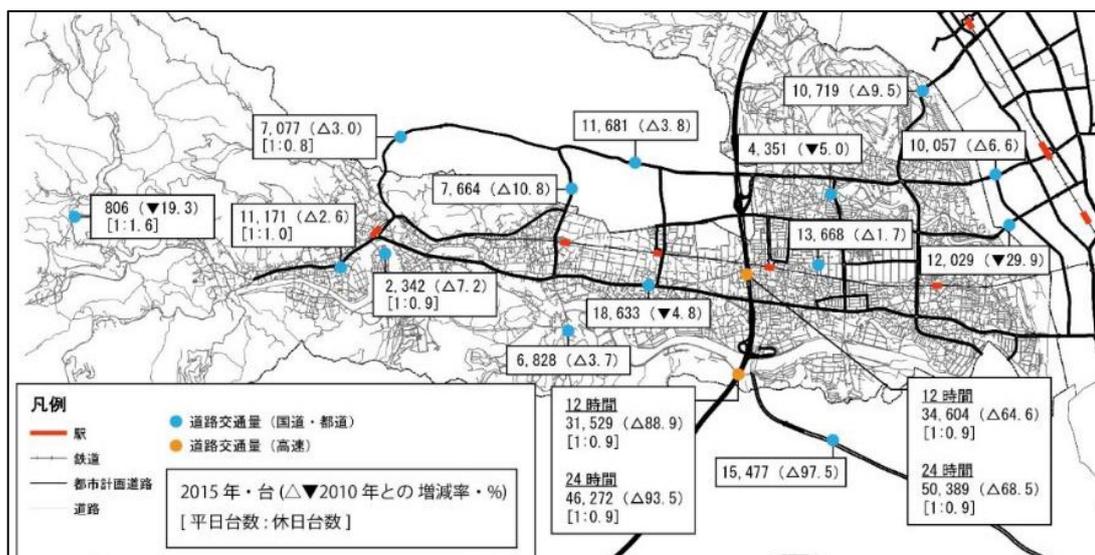


図6 道路交通量[平成22,27年(2010年,2015年)比較]

出典：道路交通センサスより作成

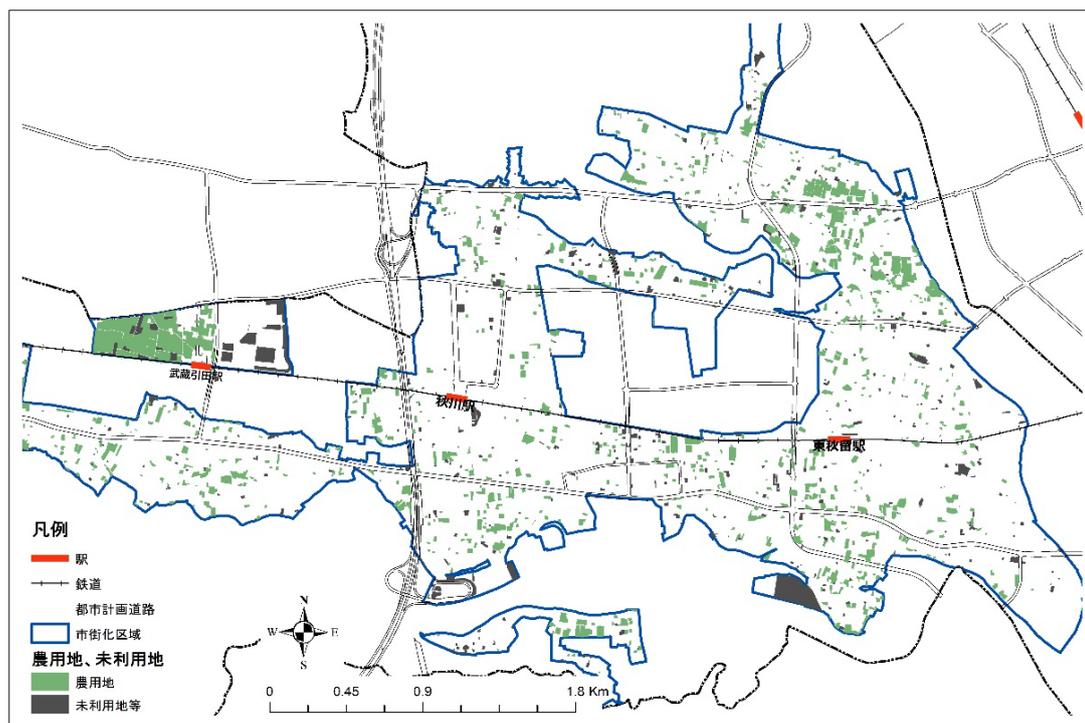


図7 市街化区域内における農用地及び未利用地
(武蔵引田駅、秋川駅、東秋留駅周辺)

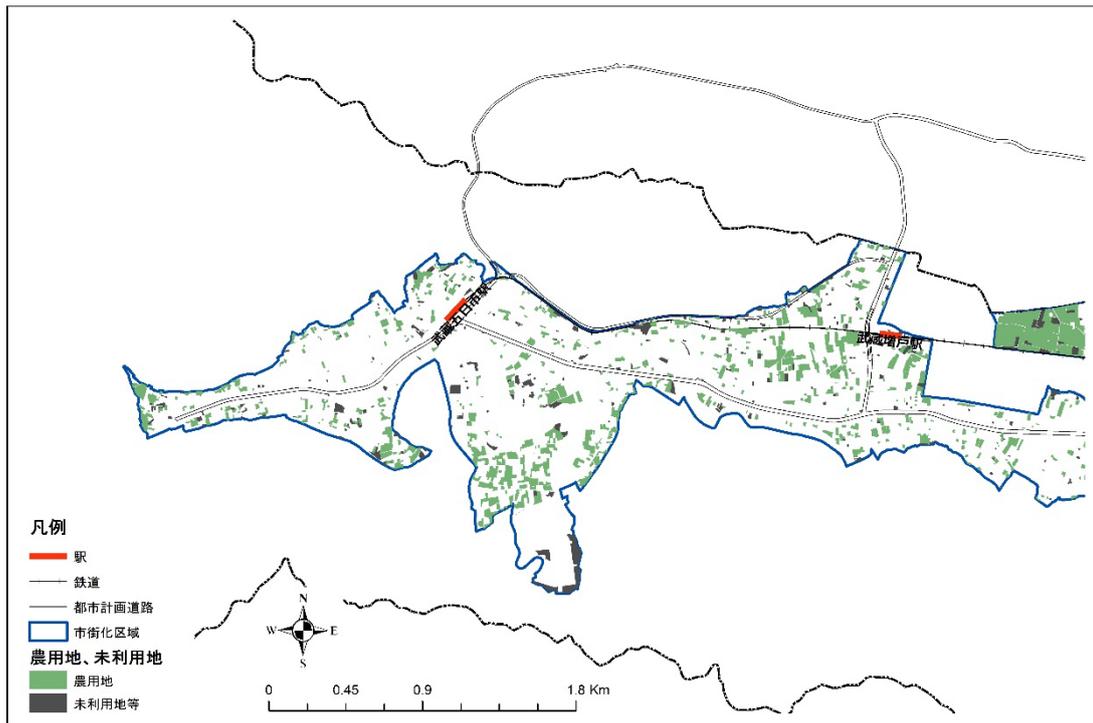


図8 市街化区域内における農用地及び未利用地
(武蔵五日市駅、武蔵増戸駅周辺)

出典：平成29年(2017年)東京都土地利用現況調査、国土数値情報より作成

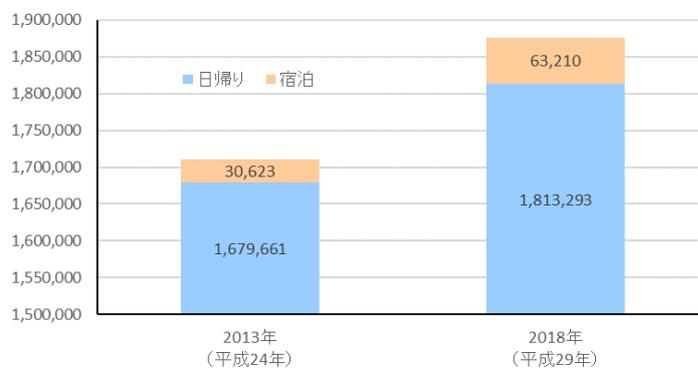


図9 観光入込客(実数)の推移

出典：西多摩地域観光入込客調査報告書(平成25年(2014年)、平成30年(2019年))

■ まちづくりの方向性

本市の交通状況や土地利用の現況・課題を踏まえ、都市計画マスタープランのまちづくりの方向性は次のとおりとします。

- 圏央道インターチェンジを活用した産業機能の向上【土地利用】【交通】【産業】
- 広域交通網(高速道路等)を生かした観光の拠点づくり、アクセス強化【観光】
- 低・未利用地を活用した計画的な土地利用誘導【土地利用】
- 鉄道駅等の拠点への都市機能の集約による都市の活力の向上【土地利用】【交通】【産業】
- 観光客・宿泊客の増加に合わせた都市基盤の整備、滞在型観光施設等の整備【観光】

(【 】内は該当する全体まちづくり方針の分野)

1-3 都市の「うるおい」に関する現況・課題

(1) 自然環境が保全され身近な緑が充実したまち

■ 現況と課題

身近な緑である都市公園が人口の集中しているエリアで不足している地域があり、公園や緑地の充実が求められます(図10)。

生産緑地が減少しており、その一部では開発行為が発生しています。生産緑地の行為制限解除に伴う開発行為等に対しては、適切な緑地等の確保を指導していく必要があります(図11)。

生物多様性の保全や地球温暖化対策など、環境に配慮した持続可能な都市整備が求められます(図12)。

本市の7割弱は森林・河川等であり、豊かな自然の保全や共生が求められます(図13)。

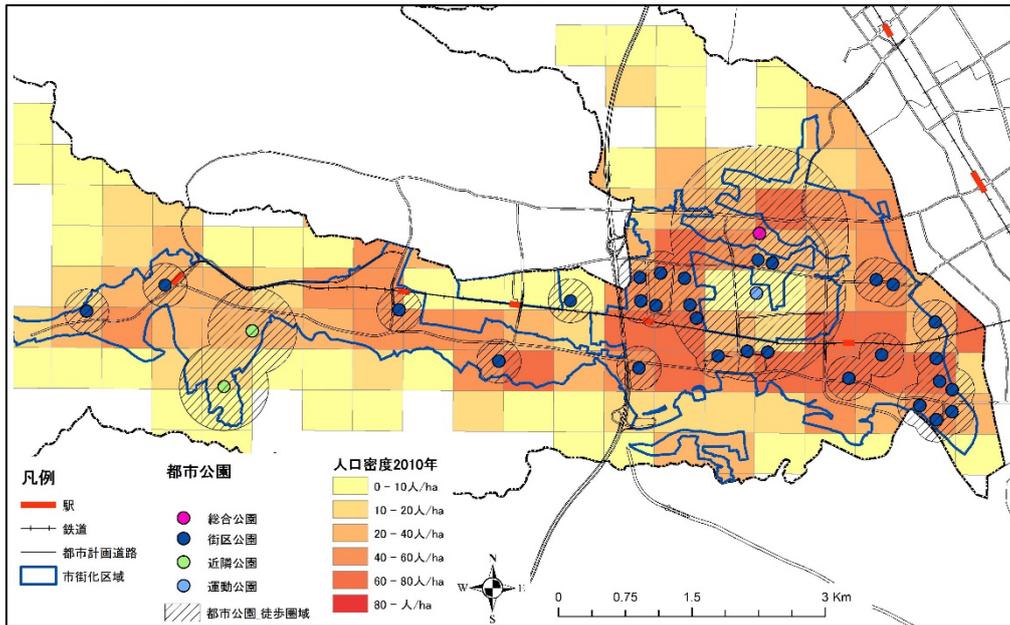


図10 公園立地状況と徒歩圏

出典：国土数値情報、あきる野市都市整備部資料より作成

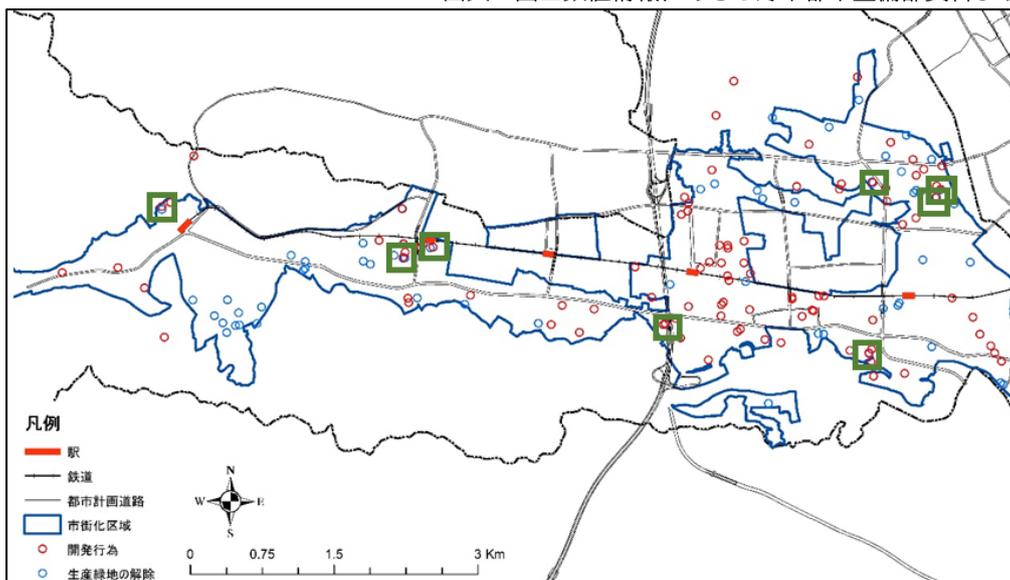


図11 開発行為、生産緑地の行為制限解除の状況

※ で示した箇所は、生産緑地の行為制限解除に伴い開発行為が行われた場所

出典：あきる野市調査資料より作成

I あきる野市の現況と課題

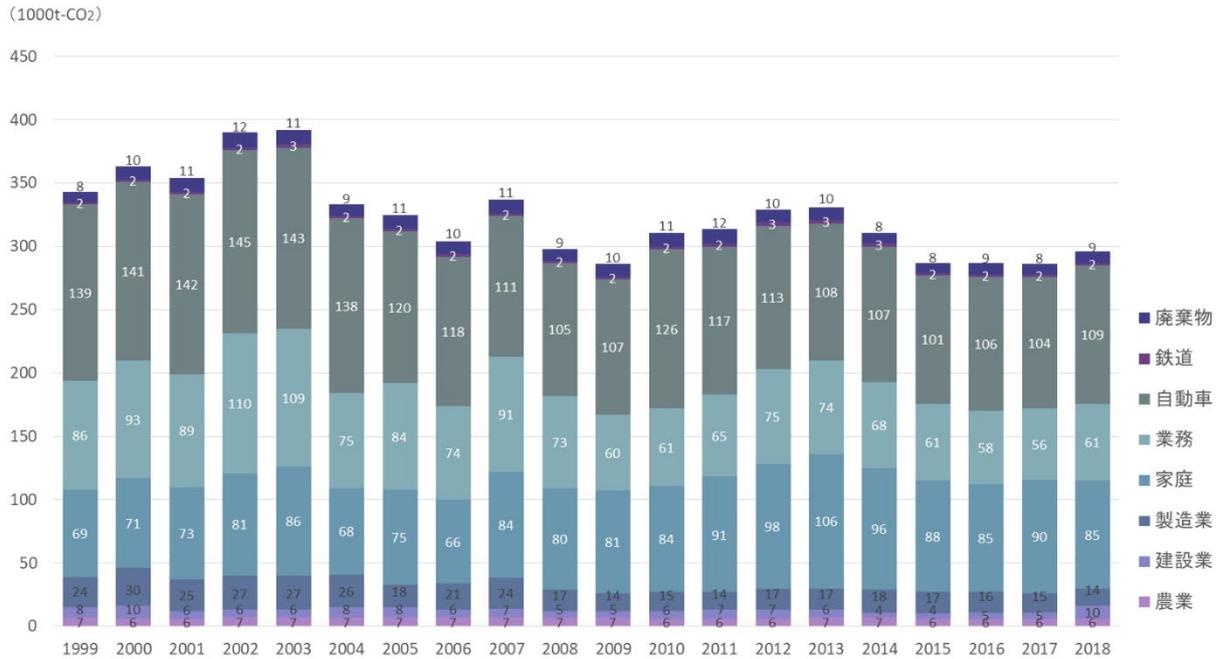


図12 部門別二酸化炭素排出量の推移

出典：多摩地域の温室効果ガス排出量（1999年度～2018年度）

オール東京 62 市区町村共同事業「みどり東京・温暖化防止プロジェクト」（令和3年）

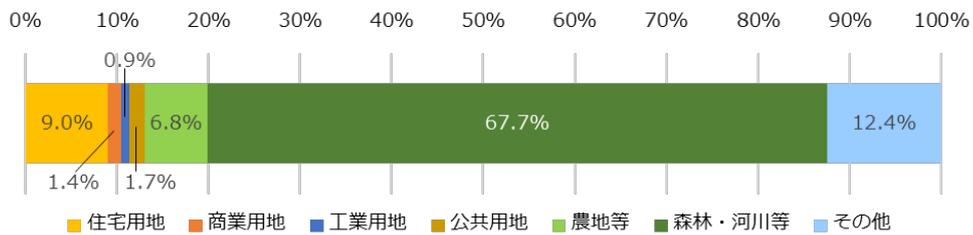


図13 土地利用面積割合

東京都土地利用現況調査（平成29年（2018年））より作成

■ まちづくりの方向性

本市の公園の整備状況や自然環境等の現況・課題を踏まえ、都市計画マスタープランのまちづくりの方向性は次のとおりとします。

- 身近な公園の充実・活用による市民に親しまれる都市づくり【公園緑地】【景観】
- 山地や丘陵地の緑、川の水辺と崖線の緑地などの良好な自然環境の保全【公園緑地】
- 本市の魅力である里山、農地、森林などの自然とそこに生息する様々な生きものに配慮したまちづくり【土地利用】【公園緑地】
- 道路や宅地などの緑化による緑豊かな街並み形成【公園緑地】【景観】
- 豊かな自然と人が共生した環境への負荷の少ない持続的都市形成【環境】

（【 】内は該当する全体まちづくり方針の分野）

1-4 都市の「安全・安心」に関する現況・課題

(1) 安全・安心が強化されたまち

■ 現況と課題

震災時の建物倒壊、火災危険度を低下させるため、建物の耐震・耐火性能の向上や、災害時活動困難度の高いエリアでの道路整備、空地の確保、事前復興の取組などが必要です(図14)。また、市街地では土砂災害や浸水の高リスクエリアもあり、防災性の強化が必要です。

生活に必要な店舗等、生活サービス施設の徒歩圏から外れた市街地もあり、土地利用や公共交通と連携した生活環境の充実が必要です(図15)。1-2で示したように、人口減少・少子高齢化を踏まえると、高齢者でも安心して暮らせる買物等の生活環境の充実や、日常生活の移動に欠かせない生活道路等のバリアフリー化への対応が必要になってきます。

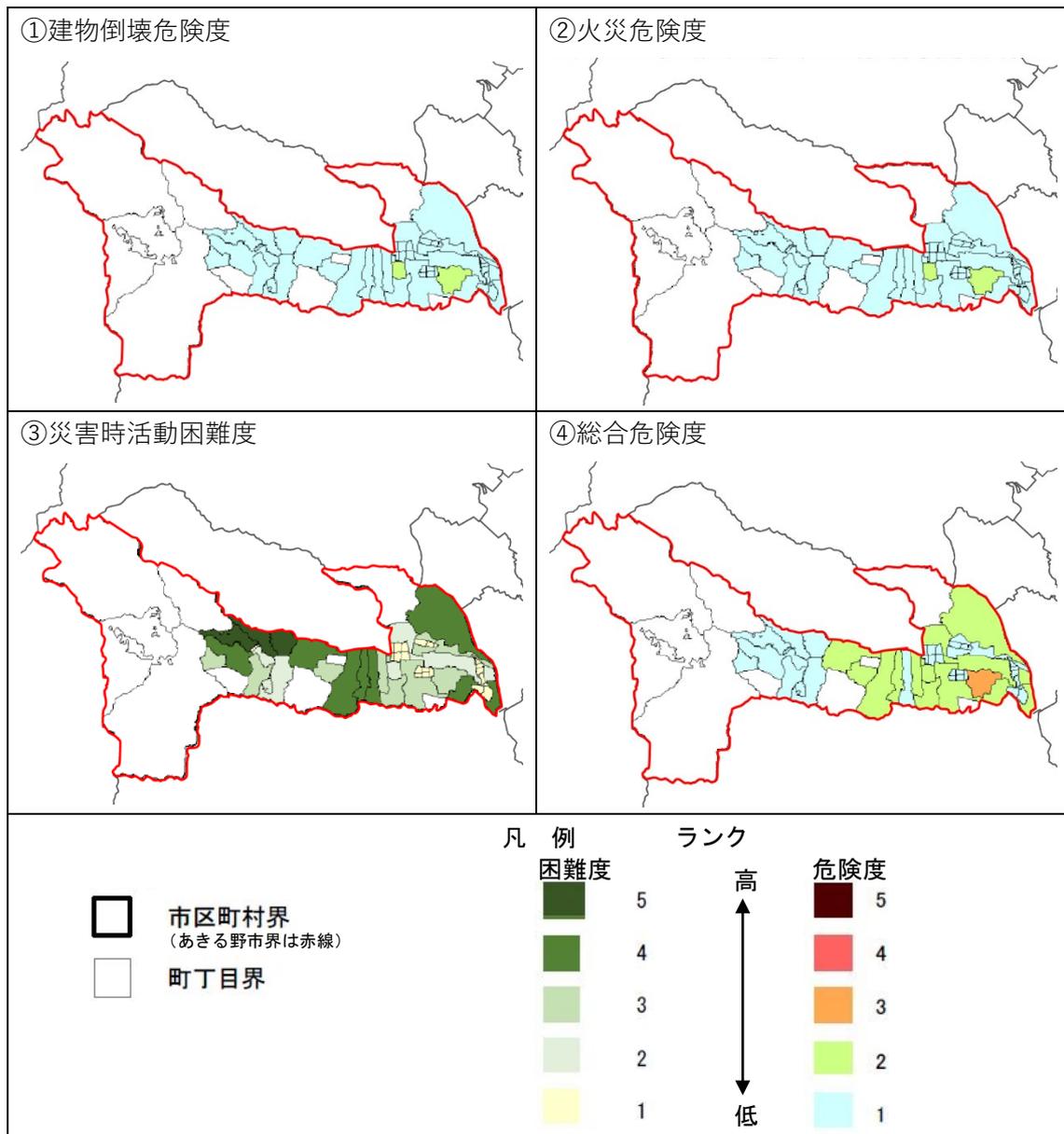


図14 地域危険度ランクマップ

出典：地震に関する地域危険度測定調査報告書（第8回）平成30年（2018年）より、あきる野市部分を抜粋

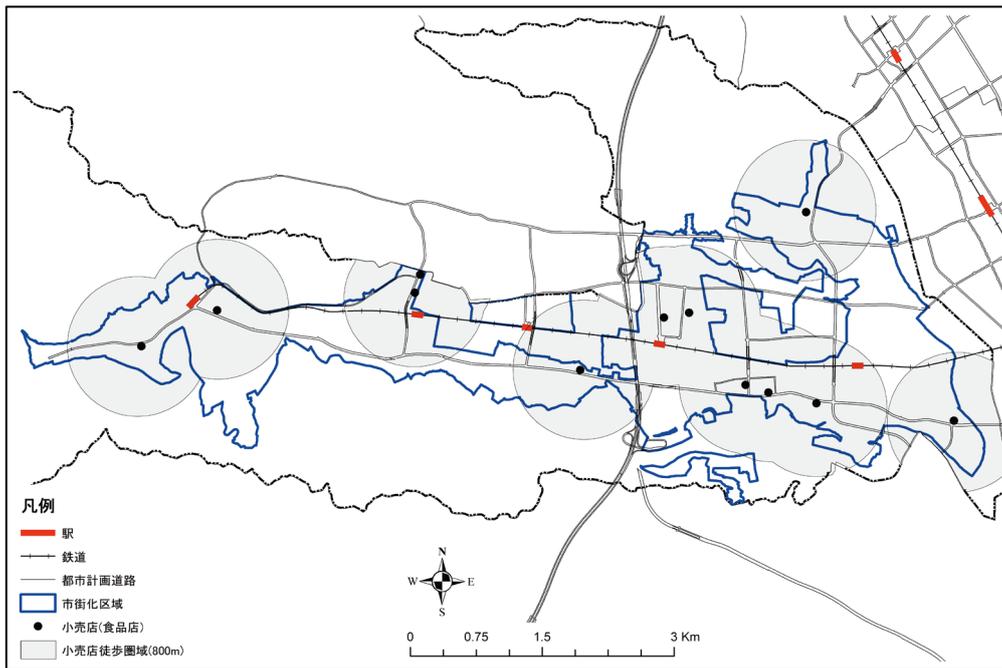


図 15 小売店（食品店※）の徒歩圏域（800m）

※食品店：総合スーパー、食品スーパー、業務用食品スーパー、食品ディスカウントセンター
出典：日本全国スーパーマーケット情報より作成

■ まちづくりの方向性

市の地域危険度や災害リスク等の現況・課題を踏まえ、都市計画マスタープランのまちづくりの方向性は次のとおりとします。

- 建築物の耐震化等の促進による災害に強いまちづくり【防災】【住宅】
- 各種災害に対する脆弱性の事前改修による、災害に強い都市構造・土地利用【土地利用】【防災】
- 治水・利水・環境を柱にした、より親しみやすい河川環境の整備及び維持・保全【河川】【防災】
- 大規模災害発生を想定した迅速かつ計画的な復興が可能となるような事前復興【防災】
- 避難路・避難場所等の確保などの防災諸施設の整備【防災】【交通】
- 歩きやすく安全な道づくり【交通】
- 超高齢社会に対応し、地域特性に応じた買物環境の整備【産業】
- 都市施設のユニバーサルデザイン化や、生活利便施設、福祉施設等の確保など子どもからお年寄りまで誰もが安心して住み続けられるまちづくり【福祉】

（【 】内は該当する全体まちづくり方針の分野）

1-5 「市民参画・協働のまちづくり」に関する現況・課題

あきる野市都市計画マスタープラン基礎調査で実施した市民アンケート調査によると、回答者の約9割の市民が地域のまちづくりに参画したいとの意向があり（図16）、まちづくりに関する情報発信や反映できる参画機会が求められています。

問 あなたは、お住まいの地域のまちづくりに関心がありますか。

回答者775名（無回答・無効回答者62名を除く）

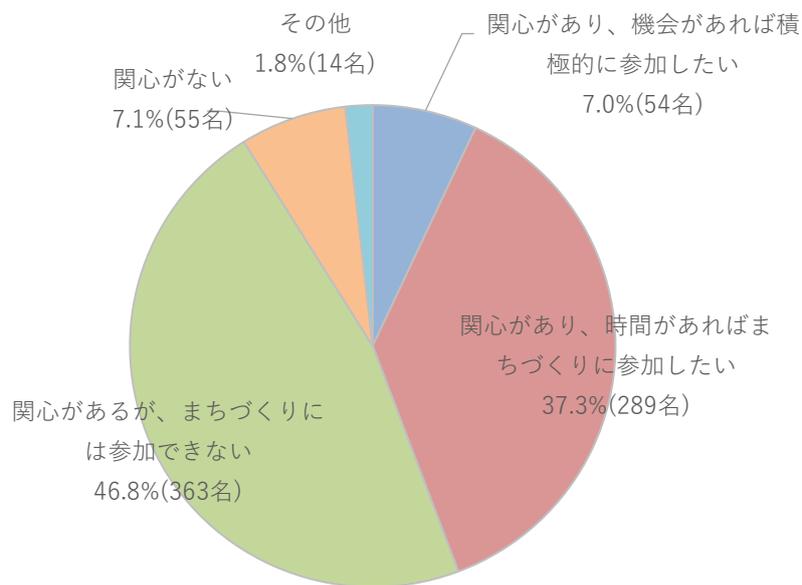


図16 市民のまちづくりに対する意向

出典：平成30年度 あきる野市都市計画マスタープラン基礎調査

■ まちづくりの方向性

市民のまちづくりに対する意向等を踏まえ、都市計画マスタープランのまちづくりの方向性は次のとおりとします。

- まちづくりに関する情報発信による市民の参画意識の向上
- 市民のまちづくりへの参画機会の拡大
- 幅広い市民の声を集めることによる実現化方策の充実

2. 市民の意見・アイデア

2-1 まちづくり懇談会の実施

市民アンケートにおいて、市民のまちづくりへの参画機運が高まっていることが示され、また、まちづくりを進めるには市民の参画や意向の反映が不可欠であることから、令和元年から2年にかけて、ワークショップ形式による懇談会を企画・実施しました。第1回は各地域から参加いただき、世代及び地域混合型の合同懇談会とし、第2回は、第1回の成果を基に地域別の懇談会を開催（各地域1回）しました。

懇談会の実施に当たっては、本計画の改定を市民へ広く周知するとともに、幅広い世代から将来都市像や地域の将来像、全体まちづくり方針及び地域別まちづくり方針に関する市民意見を聴取し、本計画の内容に反映することとします。

また、市民参画を機に、市民のまちづくりへの関心を高め、市民が主体的にまちづくり活動を行うなど、協働のまちづくりの推進を図ります。

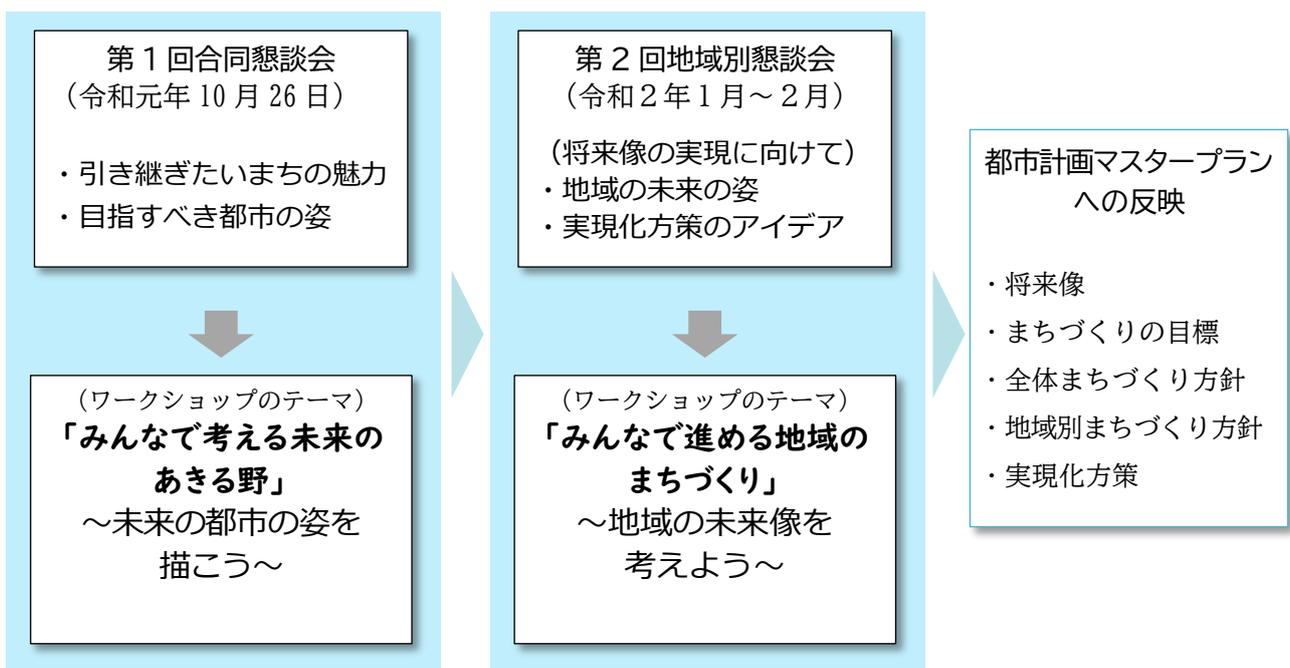


図17 懇談会の流れとアウトプットイメージ



(第1回合同懇談会)



(第2回地域別懇談会〔小宮・戸倉地域〕)

図18 懇談会の様子

I あきる野市の現況と課題

2-2 まちづくり懇談会の結果

(1) 合同懇談会 (第1回)

世代及び地域混合型のグループ編成とし、1グループ9名程度の計3グループにてワークショップを実施しました。あきる野市の魅力(残したい、守りたい場所や施設、風景など)について意見を出し合い、その後、次世代に残したいまちの魅力と、魅力を生かした、または守るためのまちづくりの視点を整理し、目指すべきまちの未来像についてディスカッションしました。

A グループが考えるまちの将来像

★「あきる野」ブランド化 ★あきる野家族

市民の方々の交流を大切に
するまち
住みたいと思うまち
ご近所の人が集まって
晩ご飯を食べるコミュ
ニティがあるまち

B グループが考えるまちの将来像

★歩きたくなる ★暮らしやすい田舎 ★人がつながる

自分の市を誇れる
人達の集いになっ
ているまち
身近な自然の中で
子供たちや住民が
過ごせるまち
健康で心も強い子供た
ちを育て、あきる野が
大好きになるまち

C グループが考えるまちの将来像

★住んでいる人が全員幸せな都市

自然・文化と市民が
共創して輝くまち
働く場があって活
気のあるまち
住んでいる人が
勧められるまち

図19 合同懇談会で出された「まちの将来像」※

(2) 地域別懇談会 (第2回)

第1回合同懇談会に引き続き、令和2年1月18日、25日、2月1日の3週にわたって、6地域に分かれ、地域ごとに懇談会をワークショップ形式で開催しました。

ワークショップでは、地域の魅力、地域の未来に向けて改善したいところに関して意見を出し合い、それをもとに地域でできること、地域と行政の役割分担などを整理し、目指すべき地域の将来像についてディスカッションしました。

地域の将来像 /

東秋留地域

- 人と身近な自然の共生
- 身近な自然（田・畑・池）
- +人のつながり
- 穏やかで暮らしやすい
- 働きやすいまち
- 音楽とスポーツのまち

菅生・草花
地域

- 平井川で遊びましょう！
- 自然と文化
- 市民の交流が豊かなまち
- 災害に強いまちづくり
- 共助力のUP！
- 笑顔でいられるまち
- 子どもが暮らしやすいまち
- 「自然」はあきる野市のテーマ

秋川地域

- 災害に強いまち
- 程よい田舎感
- 田舎の中の都会
- 市民力の活用
- いつでもどこでも誰とでも交流できる
- 豊かな自然環境と新しい市民コミュニティのハイブリッドタウン
- 自主的な市民活動

増戸・引田
地域

- 文化・伝統
- 自然共存と住民の交流が
高いまち
- 自然と文化の共生へ
- 誰もが笑顔で元気あふれる
やさしいまち
- 小さな自然を大切にする町
- 安心安全、楽しい豊かなまち

五日市地域

- 五日市の資源を活かした
まちづくり
- 静かな時間の流れる町を散歩
したくなる「歩きたくなる町」
- 歩いて気持ちのいい景観のまち
- 自然／文化の強みを活かす
- インクルージョンの風土づくり

小宮・戸倉
地域

- 自然環境を上手に利用し、
皆で楽しめる、楽しむまち
- もともと地域に存在してい
る技術を新住民にきちんと
つなぐ
- 人も水も緑も土にかえる
迄楽しむあきる野の森
- 自然環境と調和した暮ら
しを实践できる地域

図 20 地域別懇談会で出された「地域の将来像」※

※図 19 と図 20 では、まちづくり懇談会で出された意見の主なものを掲載しています。
市のホームページでは、まちづくり懇談会で出たすべてのご意見を「みんなのアイデア」として掲載しています。すべての意見やアイデアは、本マスタープランの内容に反映できませんが、貴重な市民意見として今後のまちづくりや市政の参考といたします。